

登録コード	EKF44900	開講年度	2026					
授業科目	家庭科授業内容研究					担当教員	山岸 明浩 他	
英文授業名	Study on Pedagogical Content (Home Economics)					副担当	沖嶋 直子・JUNG HYOJUNG	
単位数	1	講義期間	後期(前半)	曜日・時限	木曜・2時限		履修学年	1・2年生
講義室	教育W321			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー該当								
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					⇔	【授業の達成目標】	
	26EAカリ，25EAカリ，24EAカリ							
	教育の専門職としての学識・技能					⇔	家庭科の教育内容に関する専門職としての学識・技能を身に付けるとともに，学んだ知識と技能を実践できるようになる。	
(2)授業の概要	演習形式で，家庭科教育学の専門性に裏付けられた家庭科教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない，質疑応答・討議する。 初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を，先行研究に位置付けつつ，教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。							
(3)授業計画	第1回：教科指導の問題意識に基づく家庭科教育の授業内容に対する課題設定 第2回：教科指導の課題に関わる先行研究の成果と課題 第3回：教科指導の課題に関わる関連学問の理論 第4回：教科指導の課題に関わる関連学問の研究手法の演習 第5回：研究課題に取り組む意義（教育実践上，教育学研究上）の議論 第6回：家庭科教育の授業内容の構想についての議論 第7回：成果のまとめと研究課題解決のための構想発表（レポート提出） ※各回とも教員3名によるTTで指導をする（分担，単独等は適宜対応）。							
(4)成績評価の方法	・各回の発表内容（40％），質疑応答・議論の内容（20％），およびレポート（40％）によって評価する。 ・評価割合は，若干の調整をおこなうことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可							
(5)履修上の注意	履修する場合は，必ず事前に担当教員に連絡をし，履修についての相談を行うこと。 内容によって，授業日程や開催場所を変更することがある。 履修に当たっては，自らの研究課題を考慮し，指導教員と相談の上で決定すること。 授業の実施方法(対面・オンライン等)は，受講生と相談しながら進める。							
(6)質問,相談への対応および連絡先	山岸明浩 W311 TEL026 (238) 4187 yamaaki@shinshu-u.ac.jp 沖嶋直子 W307 TEL026 (238) 4186 okishima_naoko@shinshu-u.ac.jp 鄭 暁静 W305 TEL026 (238) 4183 hyojung@shinshu-u.ac.jp							
(7)成績評価の基準	「卓越している」：(1)研究課題，(2)理論的枠組み，(3)授業内容と専門性，(4)研究の意義，のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうち3つ以上について発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「かなり上である」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうち2つについて発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「やや上にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうちいずれか1つについて発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「水準にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できている。							
(8)事前事後学習の内容について	【事前学習】質疑応答・討論のための資料を準備すること。また，研究課題に関連した文献等を，図書館等で検索・収集し，研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり，吟味したりすること。 【事後学習】質疑応答・討議を通じて生まれた課題について，事後に各自で調べて再検討すること。 この授業は，45 時間の学修を必要とする。従って，30 時間以上の時間外学習が必要となる。							
【教科書】	授業時に紹介する。							
【参考書】	授業時に紹介する。							